

提供日 2018/09/12
 タイトル 平成30年度「エイジレス・ライフ実践事例及び社会参加活動事例」の決定
 担当 健康福祉部 福祉長寿局長寿政策課
 連絡先 計画班
 TEL 054-221-3250



国の「エイジレス・ライフ実践事例」「社会参加活動事例」に決定

国の「エイジレス・ライフ実践事例」に本県から3名が、「社会参加活動事例」に1団体が決定されました。

1. 概要

内閣府では、既に高齢期を迎え、又はこれから迎えようとする世代の高齢期における生き方の参考に供するため、全国のエイジレス・ライフ実践事例（個人）と社会参加活動事例（グループ）について、紹介しています。県内のエイジレス・ライフ実践事例が紹介されるのは19～21件目、社会参加活動事例が紹介されるのは19件目です。

○エイジレス・ライフ実践事例（個人）

高齢者が、年齢にとらわれず自らの責任と能力において自由でいきいきとした生活（エイジレス・ライフ）を実践している事例

○社会参加活動事例（グループ）

高齢者の団体等が地域社会活動や世代間交流などの社会参加活動を積極的に行なっている事例

2. 本県の決定事例

【エイジレス・ライフ実践事例】

市町名	実践者の氏名	年齢	活動内容
裾野市	小西 信安 (こにしのぶやす)	94歳	視覚障害者の支援としてボランティア団体、「朗読録音グループ すそのうぐいす」に平成3年4月から現在までの26年間、様々な情報をテープに録音し提供してきた。また、住まいの地域では独居の高齢者の日常的な困りごとを聞き、ふれあいサロンの開設をしたり、家周りの手伝いなどを行い誰からも頼られている。現在、認知症キャラバンメイトとして認知症理解のための啓発活動の他、小学校からの依頼により戦争体験を語る地域の先生としても活躍している。
掛川市	尾白 幸男 (おじろゆきお)	85歳	教師を退職後、シニアクラブに加入。シニアクラブ会員に対し、講話や腹話術等を披露。その後、単位クラブ会長や相談員、支部長として10年近く活動する。支部長を退いた後は顧問としてシニアクラブの活動に関わりながら、得意のパソコン技術を生かし、シニアクラブ事業に協力いただく他、パソコンの分からない地域高齢者に操作方法やワード、エクセル等を教えている。
掛川市	牧野 正治 (まきのしょうじ)	92歳	得意の園芸技術と農業経験を生かし、自宅で花や野菜を栽培。10年以上にわたり老人福祉施設や農協、病院等に自身で育てた花を寄付。希望者にポインセチアの無償配布も行い、90歳を超えた現在も活動を続ける。季節に合わせた綺麗な花は来館者にとっても好評で、「いつも綺麗な花があるので見て嬉しい」と皆の気持ちを和ませている。

【社会参加活動事例】

市町名	団体の名称	活動内容
浜松市	シニアクラブ新津地区連合会	地域の老人クラブ会員と地区老人クラブ連合会が中心となり防犯まちづくりのため地元警察署、自治会連合会、小学校、中学校、高校の関連生徒及び先生が協力し、共通の問題に取り組み安全安心なまちづくりのため防犯交通安全危険予防マップの作製を通して啓発啓蒙を図り、地区の交通事故防止、見守り活動、防犯活動に貢献している。

3. 参考

■国の選考方法

都道府県・指定都市及び高齢者関連団体から推薦のあった個人及びグループの事例の中から、内閣府に置かれた選考委員会において選考した。本年度の状況は以下のとおりです。

部門	推薦件数	決定件数
エイジレス・ライフ実践事例	79件	58件
社会参加活動事例	64件	44件

■その他

- (1) 受賞者には、書状及び記念の盾が授与される予定です。
- (2) 内容等については、9月14日を目処に内閣府ホームページに掲載予定です。